

わたしの避難計画

避難の知識ブック

(御殿場各地区共通版)

災害についての 理解を深めよう！



ダウンロード数34万件突破

緊急情報の通知や
ハザードマップの確認、
防災学習など、災害時に
役立つ機能が満載！

防
災



防災アプリ

静岡県防災

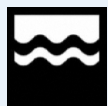


目次

・災害リスクについて	2
・避難のタイミング・避難に関する情報について	5
・避難先について	7
・避難行動について	8
・富士山で起こりうる噴火現象	10
・御殿場市富士山火山防災マップと避難対象エリア	14
・御殿場市に影響を及ぼす溶岩流ドリルマップ	15
・パターン避難	16
・溶岩流流下パターンごとのドリルマップ及び避難対象区	17
・溶岩流流下Aパターンにおける避難対象区及び溶岩流ドリルマップ番号 （融雪型火山泥流を含む）	18
・溶岩流流下Bパターンにおける避難対象区及び溶岩流ドリルマップ番号 （融雪型火山泥流を含む）	19
・溶岩流流下Cパターンにおける避難対象区及び溶岩流ドリルマップ番号 （融雪型火山泥流を含む）	22
・溶岩流の流下に伴う避難のタイミング	23
・避難手段及び避難先	24
・御殿場地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリルマップ及び一時集結地（避難場所）	26
・富士岡地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリルマップ及び一時集結地（避難場所）	27
・原里地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリルマップ及び一時集結地（避難場所）	28
・玉穂地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリルマップ及び一時集結地（避難場所）	29
・印野地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリルマップ及び一時集結地（避難場所）	30
・高根地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリルマップ及び一時集結地（避難場所）	31
・降灰（小さな噴石を含む。）によるリスク	32
・避難に備えて	34

災害リスクについて

河川氾濫



河川氾濫のハザードマップは、大雨で河川が氾濫した場合に、どの位の深さで浸水するかを色別で示すとともに、氾濫した水の勢いで家が倒壊するおそれがある範囲を示しています。

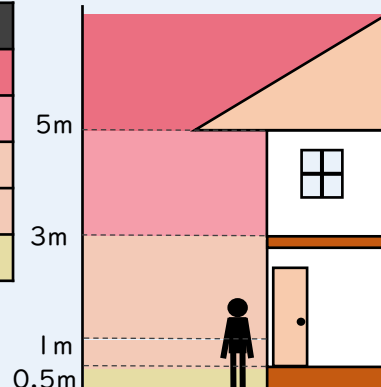
○浸水深と避難の目安

浸水深	実際の状況	浸水色
5～10m	2階の軒下以上が浸水する	濃いピンク色
3～5m	2階の軒下程度まで浸水する	薄いピンク色
1～3m	床上から1階程度まで浸水する	オレンジ色
0.5～1m	1階床上が浸かる程度まで浸水する	薄いオレンジ色
0.5m未満	大人の膝下程度まで浸水する	黄色

浸水のおそれがある場合は、浸水しない安全な場所へ避難が必要です。

ただし、以下の「3つの条件」が確認できれば、浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。

○浸水色イメージ



「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない (入っていると…)



流速が速いため、
木造家屋は倒壊する
おそれがあります

地面が削られ家屋は
建物ごと崩落する
おそれがあります

② 浸水深より居室は高い



③ 水がひくまで我慢でき、 水・食糧などの備えが十分 (十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になる
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の
使用ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や③水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

○注意点

河川が氾濫していなくても、大雨で雨水が川に排水できず、低い土地が浸水する場合があります。

自宅周辺で大雨が降っていないくても、上流に降った大雨で河川が氾濫する場合があります。

災害リスクについて

土砂災害



土砂災害のハザードマップは、大雨で土砂災害が発生した場合に被害のおそれのある範囲として、土砂災害防止法に基づく「土砂災害警戒区域」、「土砂災害特別警戒区域」に指定されている範囲を示しています。

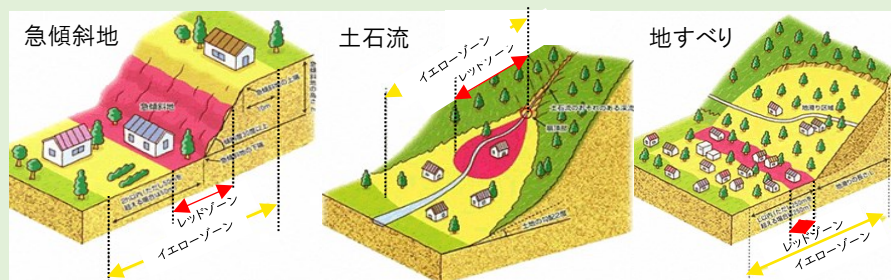
○指定区域の種類

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

- ・土砂災害が発生したときに**建物の破壊**が生じ、身体に**著しい危害**が生じるおそれのある地域

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

- ・土砂災害が発生したときに**生命や身体に危害**が生じるおそれのある地域



○特徴と前兆現象

土砂災害には以下の特徴があり、いずれも発生してから避難することが難しいので、事前に土砂災害のおそれがある場所から立ち退き、安全な場所へ避難することが必要です。

- ・崖崩れ 突然斜面が崩れ落ちるため、逃げ遅れる人が多く被害が大きい

前兆現象 崖にひび割れができる、小石が落ちてくる、地鳴りがする など

- ・土石流 時速20～40kmの速さで土砂が押し寄せ、一瞬で建物を破壊する

前兆現象 山鳴りがする、腐った土のにおいがする、川の水が濁る など

- ・地すべり 広範囲で土砂が動くため、被害の範囲が大きい

前兆現象 崖や斜面から水が噴き出す、井戸水・沢の水が濁る など

災害リスクについて

地震



地震のハザードマップは、地震が発生した場合の震度（揺れ方）や液状化の危険性、津波による浸水の深さなどを色別に示しています。

○震度（揺れ方）

強い揺れにより、建物やブロック塀などが倒壊し、身体に危害が生じるおそれがあります。

震度5弱

大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる

震度5強

物につかまらな
いと歩くことが
難しい

震度6弱

立っていること
が困難になる

震度6強

這わないと動く
ことができない

震度7

耐震性の高い
木造建物でも
傾くことがある

○液状化

地震によって地盤がやわらかくなり、安定性を失う現象。
埋立地や旧河道等で発生しやすく、液状化すると建物が
沈下したり、道路では段差やマンホールの浮き上がり
が発生するなど、避難の際に通行の妨げとなる可能性があります。



河川氾濫、土砂災害、地震・津波のハザードマップは、
静岡県防災アプリ「静岡県防災」でも確認することが
できます。

静岡県
防災アプリ



避難のタイミング・避難に関する情報について

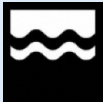
○市から発令される避難情報

市から発令される避難情報は、「高齢者等避難」、「避難指示」、「緊急安全確保」の3種類です。

災害リスクがある場所にいる人のうち、避難に時間がかかる人は「高齢者等避難」、それ以外の人は「避難指示」が避難のタイミングになります。

警戒レベル	避難情報	住民がとるべき行動
5	緊急安全確保	・ <u>ただちに命を守る最善の行動をとる</u> ※高層階や強固な建物・高い建物に避難する
4	避難指示	・ <u>全ての住民が避難を完了させる</u>
3	高齢者等避難	・ <u>高齢者等の避難に時間がかかる人は避難を開始する</u>

○避難の参考になる情報(河川氾濫)



国や県が管理している河川では、川の水位の状況や洪水予報(今後の見込み)を発表している河川があります。

また、川の水位の様子をカメラで公開している河川もあります。

これらの情報を活用して、御殿場市からの避難情報を待たずに自主的に避難することも重要です。

情報	発表基準	住民がとるべき行動
氾濫発生情報 (洪水警報)	<u>氾濫の発生</u>	
氾濫危険情報 (洪水警報)	<u>氾濫危険水位</u> に到達	・ <u>ただちに命を守る最善の行動をとる</u> ※河川や水路から離れ、高層階や強固な建物・高い建物に避難する
氾濫警戒情報 (洪水警報)	・一定時間後に <u>氾濫危険水位</u> <u>到達</u> が見込まれる ・ <u>避難判断水位</u> に到達し、 <u>水位</u> <u>上昇</u> が見込まれる	・自治体からの <u>避難指示</u> の発令に留意し、 発令されていなくても <u>早めに避難をする</u>
氾濫注意情報 (洪水注意報)	・ <u>氾濫注意水位</u> に到達し、 <u>水位</u> <u>上昇</u> が見込まれる	・自治体からの <u>高齢者等避難</u> の発令に留意し、 高齢者以外の方も <u>避難準備ができ次第、避難の判断をする</u>

避難のタイミング・避難に関する情報について

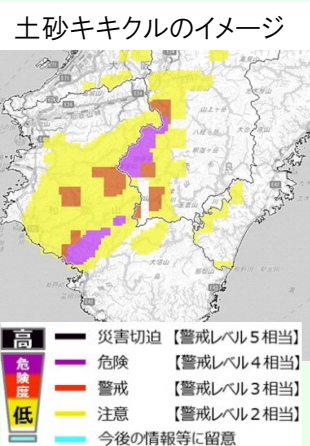
○避難の参考になる情報(土砂災害)



土砂災害警戒情報

大雨により、命に危険が及ぶ災害が発生してもおかしくない状況になったときに、県と気象台が共同で発表するものです。

特に危険度が高まっている地域について、気象庁の土砂キキクルで確認できます。土砂キキクルが「危険」(紫)の地域で土砂災害(特別)警戒区域にお住まいの方は、速やかに避難を開始しましょう。



キキクルの色	住民がとるべき行動
黒(災害切迫)	・ <u>命の危険 ただちに身の安全を確保！</u> ※山や崖から離れ、高層階や強固な建物・高い建物に避難する。
紫(危険)	・土砂災害警戒区域外の安全な場所に <u>全ての住民が避難を完了させる。</u>
赤(警戒)	・避難に時間がかかる人は土砂災害警戒区域外へ避難を開始する。
黄(注意)	・避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。

出典:気象庁 ホームページ



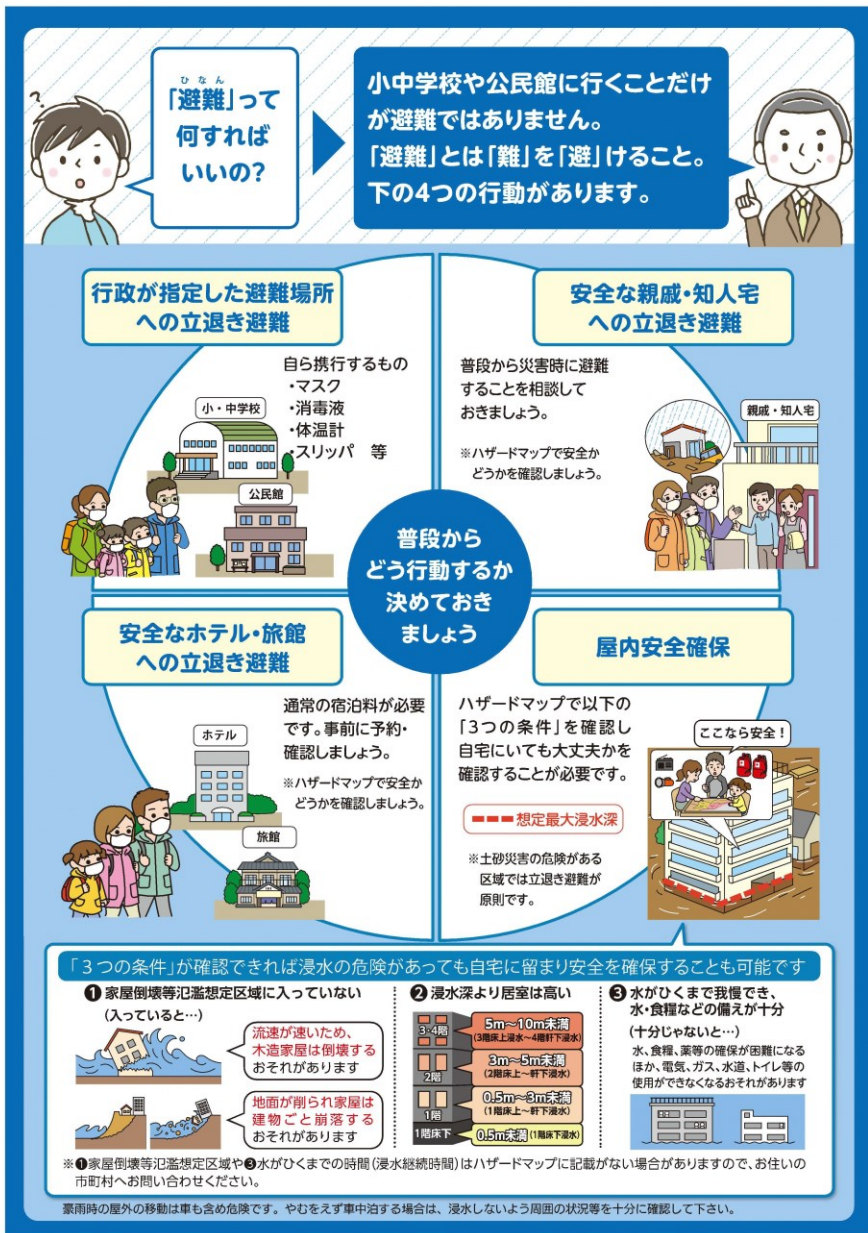
雨量計・水位計



キキクル

避難先について

○避難先の選び方

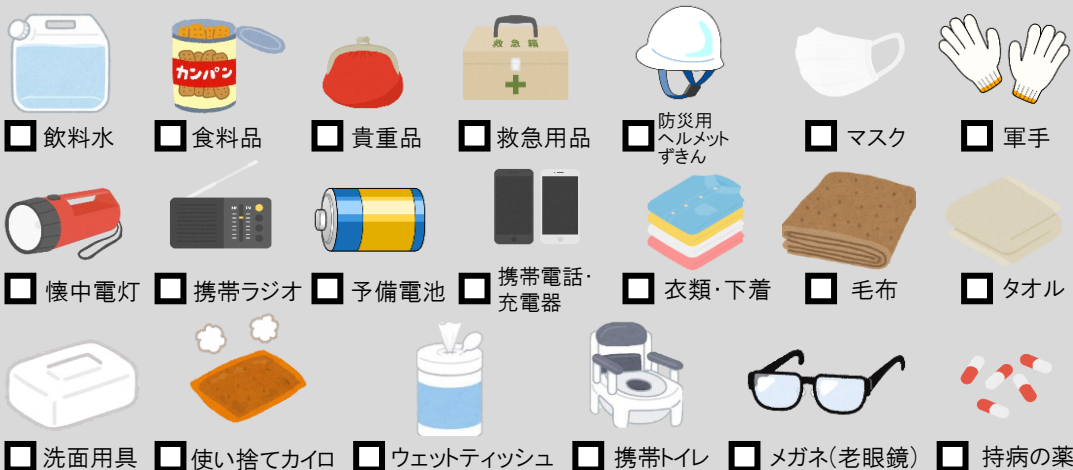


避難行動について

○立退き避難時の持ち物の準備

- ・発生時にいち早く避難できるよう、日頃からリュックなどに必要なものを入れて玄関などに準備しておきましょう。
- ・食料や水は、できれば7日分、最低3日分の量を確保し、備えておきましょう
- ・以下から必要なものを選択し、実際にリュックにまとめ、重さを確認しましょう。

○非常持出品の例（ほとんどの物がホームセンターや100円ショップで購入できます。）



・女性では生理用品、乳幼児がいる家庭では、ミルクやおむつなども必要になります。

○避難先での生活

- ・冷房・暖房の無い避難所もある
- ・電気の供給が止まることがある
- ・慣れない生活で、肉体的・精神的な疲労が予想される
- ・開けてから時間が経過した食べ物は食中毒になる可能性がある
- ・食料品・日用品が支給されるまでに時間がかかる場合がある
- ・仕切りが無く、プライバシーが確保される空間になっていないことがある



避難所の生活は過酷です。自宅で生活できる場合避難所へ行く必要はありません。

避難行動について

○避難経路の点検

「わたしの避難計画」で決めた避難先へ向かう経路についてハザードマップで確認してみましょう。

普段とは異なり、大雨が降っている中での避難、地震が起こってから避難を想定し、移動中にどのような危険があるかを考え、最も安全な経路を調べておきましょう。

安全な避難が難しい場合は、大雨になる前に避難するなど避難のタイミングを早めたり、別の避難先にするなど「わたしの避難計画」を見直しましょう。

危険な場所の例

・水路や側溝

大雨や夜間(停電時)では道路との境界が見えにくく転落のおそれがある

・橋

大雨で河川が増水して渡れないおそれがある

地震で橋が落ちたり、段差が生じたりして渡れないおそれがある

・川や土手

大雨で氾濫したり、津波がさかのぼってくるおそれがある

・崖のそばや低い土地の道路、アンダーパス

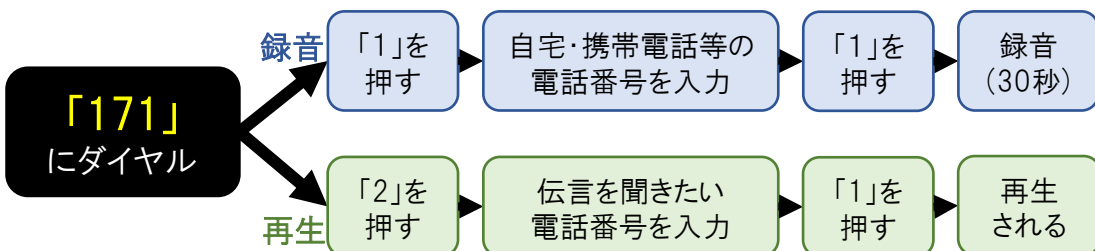
かけ崩れや冠水により通行できないおそれがある

・古い木造住宅や道幅の狭い道路、ブロック塀、自動販売機など

地震による倒壊、転倒により通行できないおそれがある

○災害用伝言ダイヤル

災害時に、固定電話、携帯電話等の電話番号宛てに安否確認情報(伝言)を音声で録音し、その音声を確認することができます。





富士山で起こりうる噴火現象



画像提供：小山真人先生、図版作成：TUBE graphics

① 火砕流



- ・噴火により放出された高熱の岩石や破片が、地表に沿って流れる現象
- ・火山灰と空気の混ざった高熱の爆風は火砕サージ
- ・火砕流や火砕サージの速度は時速百km以上、温度は数百℃
- ・速度も早いので、事前の避難が必要

画像：雲仙普賢岳の火砕流の様子
写真：GIFMAGAZINE気象庁ホームページ



富士山で起こりうる噴火現象

② 大きな噴石



「2000年有珠山噴火による噴石被害（岡田弘氏提供）
2000年4月16日撮影」

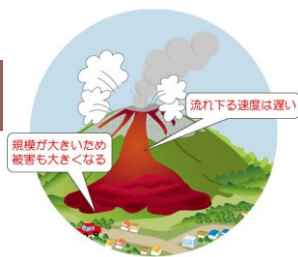


- 概ね20～30cm以上を大きな噴石と定義。
- 特に大きな物は1m超
- 小さい物でも家の屋根や壁を突き破る事がある
- 登山中などに危険が増した場合は、丈夫な建物に避難
- やむをえず外出する場合にはヘルメットを着用

③ 溶岩流



画像：ハワイ島・キラウエア火山の溶岩流の様子
引用：HUFFPOSTホームページ



- 溶岩が斜面を流れ下る現象
- 噴出したばかりの溶岩の温度：900～1200℃
- 木々を燃やし、水と触れ水蒸気爆発を起こす
- 流下速度は、一般的に人が歩く速さ程度
- 避難は比較的容易



富士山で起こりうる噴火現象

④ 融雪型火山泥流



ネバデルルイス火山の融雪型火山泥流（1985年）

米国地質調査所のHPより

写真：気象庁ホームページ



- 雪の積もっている時期に、溶岩や火砕流の熱で雪が溶けて起きる泥流
- 積もった雪が一気に溶ける
⇒土石流よりも速く
大量の泥流が谷筋や沢沿いを遠方まで流下
- 積雪期の噴火時等には、事前の避難が必要

⑤ 小さな噴石、降灰及び厚い降灰



写真：桜島の降灰（2009年9月）



写真：桜島昭和火口の爆発による小さな噴石

出典：気象庁ホームページ



- 噴火により噴出した固形物のうち、
直径2mm以上：『小さな噴石』
直径2mm以下：『火山灰』
- 小さな噴石は、火口から10km以上、火山灰は、数十kmから数百km以上風に流されて運ばれることも
- 火山の風下側では爆発的噴火に気付いたら屋内等に退避すること

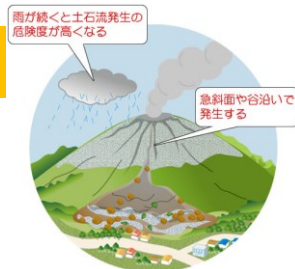


富士山で起こりうる噴火現象

⑥ 土石流



写真：土石流による被害（雲仙普賢岳） 雲仙復興事務所HP

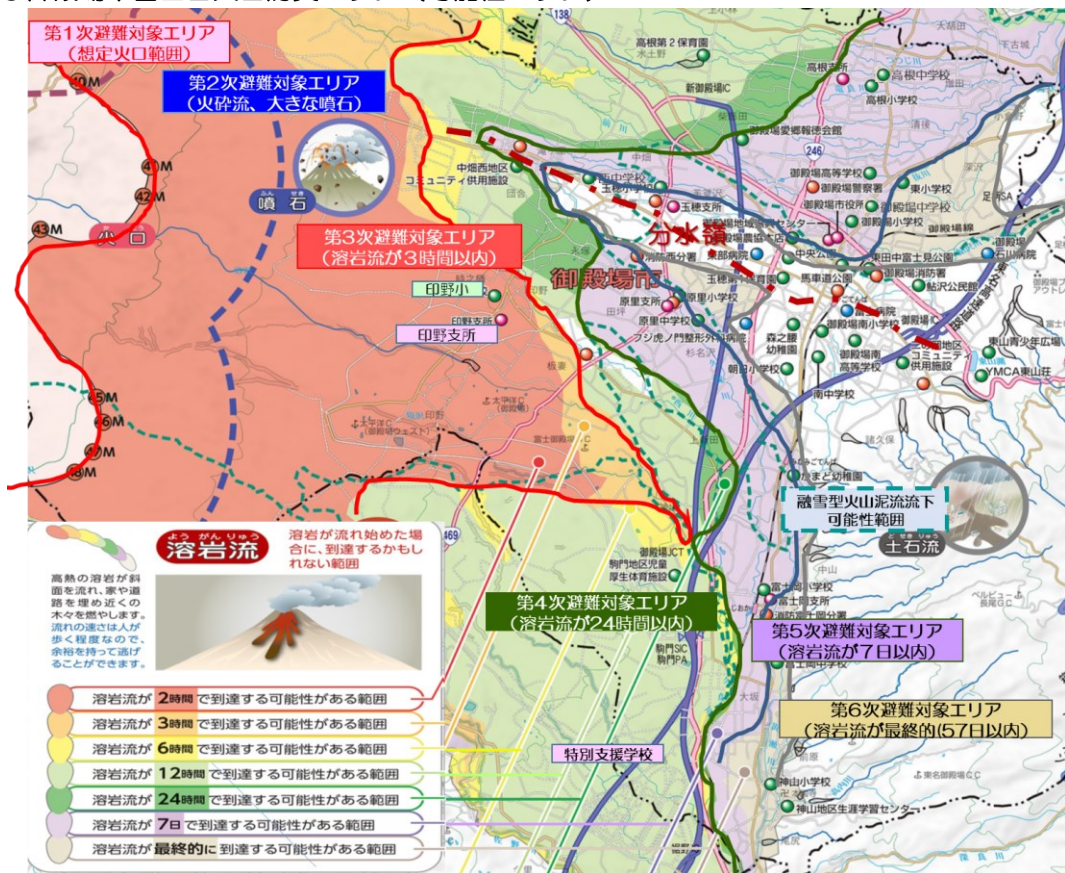


- 火山の噴火後、火山灰の降り積もった地域に雨が降ると土石流が発生しやすくなります。
- こうした土石流や泥流は、高速で斜面を流れ下り、下流に大きな被害をもたらします。
- 噴火後に雨が予想されている時は、川の近くや谷の出口に近づかないようにしましょう。



御殿場市富士山火山防災マップと避難対象エリア

○御殿場市富士山火山防災マップ（可能性マップ）



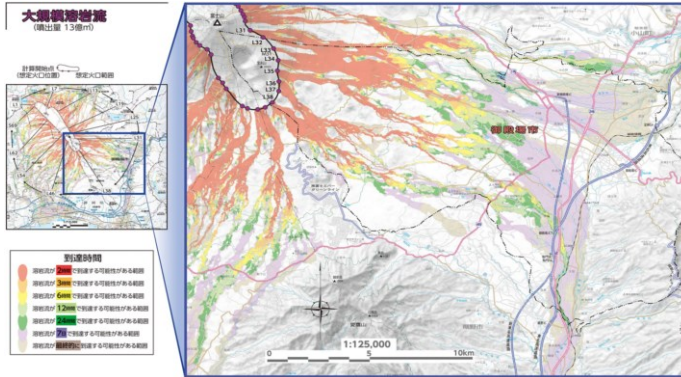
○避難対象エリアの設定

避難対象	対象とする範囲(可能性マップの示す範囲)
影響想定範囲	可能性マップの示す範囲(火口形成、火砕流・火砕サージ、大きな噴石、溶岩流)
第1次避難対象エリア	想定火口範囲
第2次避難対象エリア	火砕流・火砕サージ、大きな噴石が到達する可能性のある範囲
第3次避難対象エリア	溶岩流が3時間以内に到達する可能性のある範囲
第4次避難対象エリア	溶岩流が24時間以内に到達する可能性のある範囲
第5次避難対象エリア	溶岩流が7日間に到達する可能性のある範囲
第6次避難対象エリア	溶岩流が最終的(最大57日間)に到達する可能性のある範囲

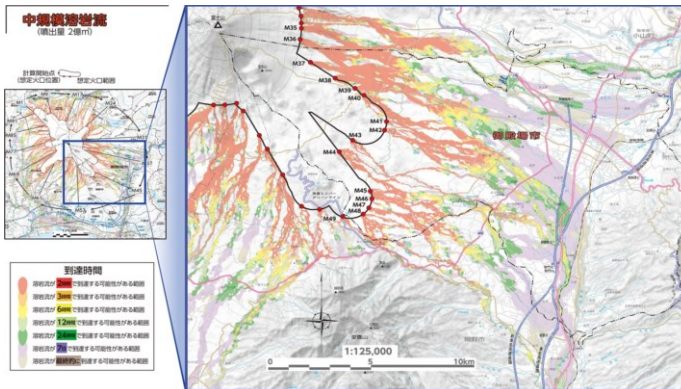


御殿場市に影響を及ぼす溶岩流ドリルマップ

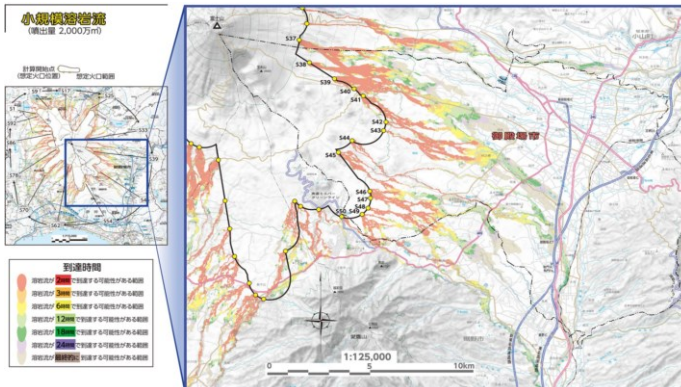
○大規模溶岩流ドリルマップ（11本）



○中規模溶岩流ドリルマップ（15本）



○小規模溶岩流ドリルマップ（12本）

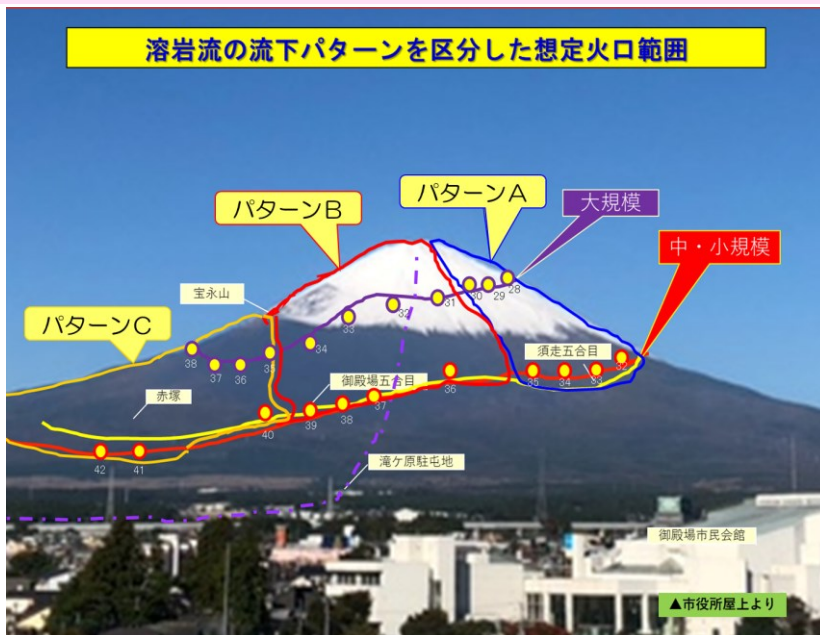




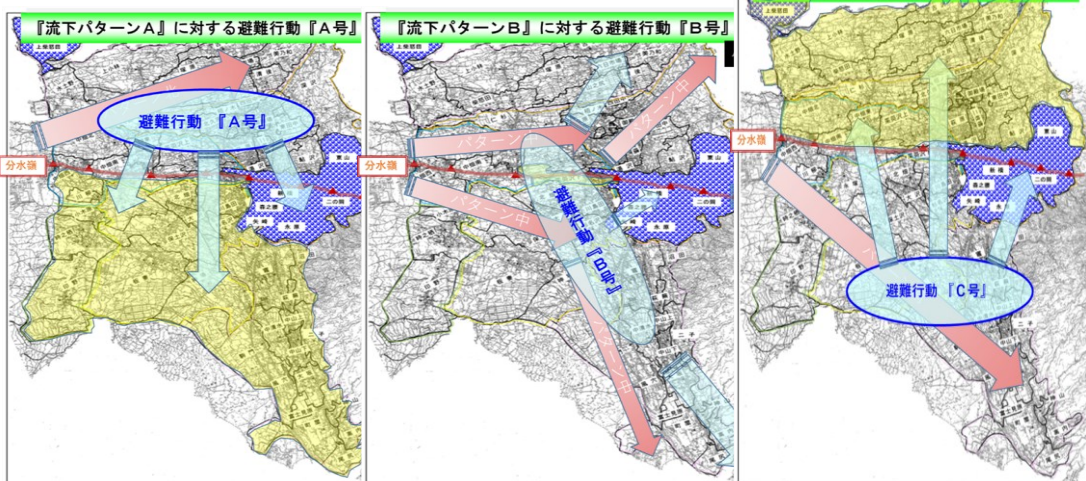
パターン避難

○パターン避難とは

溶岩流が24時間以内に到達するエリア(第4次避難対象エリア)を対象に、正確な火口位置が特定でない場合、複数のドリルマップを噴火口周辺ごとにまとめパターン化し、そのパターンごとに避難対象区を決定する避難行動をいいます。



○溶岩流の流下パターンによる避難の考え方





溶岩流流下パターンごとのドリルマップ及び避難対象区

	パターンA (分水嶺の北)	パターンB (分水嶺の北南)	パターンC (分水嶺の南)	規模別 本数計
大規模 (L)	3 (28,29,30)	4 (31,32,33,34)	4 (35,36,37,38)	11
中規模 (M)	3 (32,33,35)	5 (34,36,37,38,39)	7 (40,41,42,43,44,45,46)	15
小規模 (S)	2 (35,36)	2 (38,39)	8 (40,41,42,43,44,45,46,47)	12
パターン別 本数計	8	11	19	38/252

避難対象 エリア	パターンA	パターンB	パターンC
第3次	2時間		時之栖、印野、板妻
	3時間		保土沢、神場
第4次	6時間	中畑西	小木原、駒門、中清水 風穴、大坂、町屋 尾尻
	12時間	柴怒田、仁杉、中畑北	杉名沢
	24時間	上小林、水土野 山之尻、中畑東	竈、富士見原
第5次	古沢、塚原、六日市場 清後、美乃和、西田中 栢ノ木、北久原 御殿場、萩原、二枚橋 東田中、深沢 茱萸沢上、中畑西 中畑南	水土野、柴怒田、上小林、塚原 山之尻、六日市場、清後、仁杉 西田中、北久原、御殿場、萩原 中畑北、中畑東、茱萸沢上 保土沢、北畑、大沢、杉名沢 板妻、神場、竈、萩蕪、中山上 中山下、沼田、二子、駒門 中清水	中畑西、川柳、中畑南、 中山下、神山、高内
第6次		古沢、美乃和、栢ノ木、二枚橋 東田中、鮎沢、深沢、茱萸沢下 川島田、神山、高内、風穴、大坂 富士見原、町屋、尾尻	永塚、北畑、大沢 中山上、二子
エリア外	東山、二の岡、新橋、湯沢、永原、森之腰、矢崎		



溶岩流流下Aパターンにおける避難対象区及び 溶岩流ドリルマップ番号(融雪型火山泥流を含む)

避難対象 エリア	溶岩流 到達時間	パターン A				融雪型 火山泥流 (危険度区分)
		区 名	L	M	S	
4 次	1 2 時間	柴怒田	29 30	35		16 17 18 19
		仁 杉	29 30			17 18 19 21
		中畑北	29 30	35		17 18 19 21
	2 4 時間	上小林	28 29 30	33 35		16
		水土野	29 30	35		16 18
		山之尻	29 30	35		18
		中畑東	29 30	35		19 21 22
5 次	2 ～ 7 日	古 沢	28 29	33		16
		塚 原	29 30	35		18
		六日市場	29 30	35		18
		清 後	29 30	35		18
		美乃和	29 30	35		18
		西田中	29 30	35		18 19 21
		栢ノ木	29			
		北久原	29 30	35		19 21
		御殿場	29 30	35		18 19 21
		萩 原	30	35		19 21
		二枚橋	30	35		19 21
		東田中	30	35		19 21
		深 沢	30	35		18 19 21
		茱萸沢上	30	35		19 21
		中畑西		35		19 21 22
		中畑南		35		22



溶岩流流下Bパターンにおける避難対象区及び 溶岩流ドリルマップ番号(融雪型火山泥流を含む)

避難対象 エリア	溶岩流 到達時間	パターンB				融雪型 火山泥流 (危険度区分)
		区 名	L	M	S	
4次	6時間	中畑西	③①③②③③③④	③⑥③⑦③⑧③⑨	③⑧③⑨	①⑨②①②②②③
	24時間	川 柳	③①③②③③③④	③⑥③⑦③⑧③⑨	③⑨	②①②②②③
		中畑南	③①③②③③③④	③⑥③⑦③⑧③⑨		②②
		小木原	③①③②③③③④	③⑥③⑦③⑧③⑨		②①②②②③②④
		時之栖	③②③③③④	③⑦③⑧③⑨		②②②③
		永 塚	③①③②③③③④	③⑥③⑦③⑧③⑨	③⑨	②①②②②③
5次	2～7日	水土野	③①③②	③④③⑥		①⑥①⑧
		柴怒田	③①③②	③⑥		①⑥①⑦①⑧①⑨
		上小林	③①	③④③⑥		①⑥
		塚 原	③①	③⑥		①⑧
		山之尻	③①	③⑥		①⑧
		六日市場	③①			①⑧
		清 後	③①③②③③			①⑧
		仁 杉	③①③②③③③④	③④③⑤③⑥③⑦		①⑦①⑧①⑨②①
		西田中	③①③③	③⑥		①⑧①⑨②①
		栢ノ木	③①③③	③⑤③⑥		
		北久原	③①③②③③	③⑥③⑦		①⑨②①
		御殿場	③①③②③③			①⑧①⑨②①
		萩 原	③①③②③③	③⑥③⑦		①⑨②①
		中畑北	③①③②③③③④	③④③⑥③⑦		①⑦①⑧①⑨②①
		中畑東	③①③②③③③④	③④③⑥③⑦		①⑨②①②②
		茱萸沢上	③①③②③③③④	③⑥③⑦		①⑨②①



溶岩流流下Bパターンにおける避難対象区及び 溶岩流ドリルマップ番号(融雪型火山泥流を含む)

避難対象 エリア	溶岩流 到達時間	パターンB				融雪型 火山泥流 (危険度区分)
		区 名	L	M	S	
5 次	2 ～ 7 日	保土沢	③①③②③③③④	③⑦③⑧③⑨		②①②②③③④
		北 畑	③①③②③③③④	③⑦③⑧③⑨		②①②②③③
		大 沢	③①③②③③③④	③⑦③⑧③⑨		②①②②③③
		杉名沢	③①③②③③③④	③⑦③⑧③⑨		②②
		板 妻	③②③③③④	③⑦③⑧③⑨		②②
		神 場	③①③②③③③④	③⑦③⑧③⑨		②②
		竈	③①③②③③③④	③⑦③⑧③⑨		②②
		萩 蕪	③②③③③④	③⑧		②②
		中山上	③②③③③④	③⑧		
		中山下	③①③②③③③④	③⑧③⑨		
		沼 田	③④	③⑧		
		二 子	③④	③⑧		②②
		駒 門	③①③②③③③④	③⑧③⑨		
		中清水	③①③②③③③④	③⑧③⑨		



溶岩流流下Bパターンにおける避難対象区及び 溶岩流ドリルマップ番号(融雪型火山泥流を含む)

避難対象 エリア	溶岩流 到達時間	パターンB				融雪型 火山泥流 (危険度区分)
		区 名	L	M	S	
6次	8～57日 (最終)	古 沢	③①	③④		①⑥
		美乃和	③①③②③③			①⑧
		二枚橋	③①③②③③			①⑨②①
		東田中	③①③②③③			①⑨②①
		鮎 沢	③①③②			①⑨②①
		深 沢	③①③②③③			①⑧①⑨②①
		茱萸沢下	③①			
		川島田	③①			
		神 山	③③③④			
		高 内	③②③③③④			
		風 穴	③①③②③③③④	③⑧③⑨		②④
		大 坂	③②③③③④	③⑧③⑨		②④
		富士見原	③②③③③④	③⑧③⑨		
		町 屋	③②③③③④	③⑧		②④
		尾 尻	③②③③③④			



溶岩流流下Cパターンにおける避難対象区及び 溶岩流ドリルマップ番号(融雪型火山泥流を含む)

避難対象エリア	溶岩流到達時間	パターンC				融雪型火山泥流(危険度区分)
		区名	L	M	S	
3次	2時間	時之栖	35 36 37	40 41 42	40 41 42 43	22 24
		印野	36 37 38	40 41 42 43 44 45 46	43 44 45 46 47	24
		板妻	35 36 37 38	40 41 42 43 44 45 46	40 41 42 43 44 45	24
	3時間	保土沢	35 36 37	40 41 42	40 41 42 43	24
		神場	35 36 37 38	40 41 42 43 44 45 46	41 42 43 44 45	24
4次	6時間	小木原	35	40 41 42	40 41 42 43	24
		駒門	35 36 37 38	40 41 42 44 45 46	44 45	24
		中清水	35 36 37 38	40 41 42 44 45 46	44 45	24
		風穴	35 36 37 38	40 41 42 44 45 46	44	24
		大坂	35 36 37 38	40 41 42 43 44 45 46	44	24
		町屋	35 36 37 38	40 41 42 43 44 45 46	44	24
		尾尻	35 36 37 38	40 41 42 43 44 45 46	44	
	12時間	杉名沢	35 36 37	40 41 42	42 43	22
	24時間	竈	35 36 37	40 41 42	43	22
		富士見原	35 36 37 38	40 41 42 44 45 46	44	
5次	2～7日	中畑西	35		40	19 21 22 23
		川柳	35			21 22 23
		中畑南	35			22
		中山下	35 36 37 38	40 41 42 44 45 46		
		神山	35	42		
		高内	35	42		
6次	8～57日(最終)	永塚	35			21 22 23
		北畑	35			21 22 23
		大沢	35			21 22 23
		中山上		42		
		二子		42		22



溶岩流の流下に伴う避難のタイミング

○富士山の噴火警戒レベル

種別	名 称	対象範囲	噴火警戒レベルとキーワード			説明		
						火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者への対応
特別 警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域 及び それより 火口側	レベル 5	避難		居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要（状況に応じて対象地域や方法を判断）。	
			レベル 4	高齢者等 避難		居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まってきている）。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要（状況に応じて対象地域を判断）。	
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から 居住地域 近くまで 火口周辺	レベル 3	入山規制		居住地域の近くで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活（今後の火山活動の推移に注意、入山規制）。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難の準備等。	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等（状況に応じて規制範囲を判断）。
			レベル 2	火口周辺 規制		火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。（状況に応じて火山活動に関する情報収集、避難手順の確認、防災訓練への参加等）。	火口周辺への立入規制等（状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断）。
予報	噴火予報	火口内等	レベル 1	活火山で あること に留意		火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。		特になし（状況に応じて火口内への立入規制等）。

○避難対象エリアごとの避難のタイミング

避難対象 エリア	第 1 次	第 2 次	第 3 次		第 4 次		第 5 次		第 6 次	
避難者の 属性	観光客等 （登山者を 含む。）	観光客等	要支 援者	一般 市民	要支 援者	一般 市民	要支 援者	一般 市民	要支 援者	一般 市民
レベル 1	平 時（活火山であることに留意）									
解説情報 （臨時）	帰 宅 （登山者は 下山）	帰 宅	情報収集							
レベル 3			自主的な分散避難							
			避難 準備	情報収集						
			自主的な分散避難							
レベル 4			避難 開始	情報収集						
レベル 5				避難準備			情報収集			
噴火直後				避難開始 （対象パターンで 必要な範囲）			避難準備 （対象パターンで必要な範囲）			
噴火状況 判明後							避難開始 （リアルタイムハザードマップ又は ドリルマップで必要な範囲）			



避難手段及び避難先

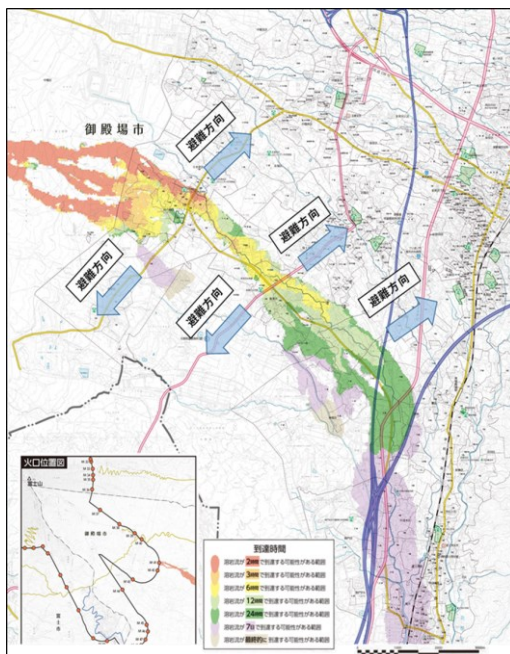
○避難対象者の区分

区 分	避難対象者
一般住民	御殿場市内に居住する住民(避難行動要支援者を除く。)
避難行動要支援者	自分や家族の支援だけでは避難できない高齢者や障害者で、避難行動要支援者名簿に記載された者
観光客等	御殿場市に訪れた観光客・登山者・通勤・通学者等

○避難手段

区 分	自家用車の有無	避難手段
一般住民	あり	原則徒歩
	なし	
避難行動要支援者	あり	自家用車
	なし	市、県が手配したバス等の車両
観光客等	あり	自家用車
	なし	公共交通機関等入域した手段

○溶岩流の流下方向に対して直交方向への避難イメージ



溶岩流からの車両避難は**車両集中**や**降灰**による**走行不能**により**渋滞が発生**する可能性が大

避難行動要支援者の逃げ遅れや救援車両の進出の遅れが発生
→ **命が危険に**

市街地のように傾斜が緩やかになると流下速度が低下し、流下速度は徒歩より遅くなる。
溶岩流の**流下範囲(幅)**から**離れる**、**流下方向に対して直交方向**に避難することで安全確保が可能でかつ避難距離も短くなり**徒歩でも避難が可能**

↓
溶岩流が流れてこない身近な避難場所へ避難することが基本



避難手段及び避難先

○徒歩を組み込んだ避難体制

「火山現象の到達時間」避難完了時間となるよう
地域の特性に応じて、移動手段を設定



渋滞する市街地等では徒歩



行政が手配する車両で移動



噴
火
発
生

噴火開始直後

<前提>

避難行動要支援者は、噴火発生前に
第3次避難対象エリアまで避難完了

最も短時間で影響範囲から離脱可能な
移動手段で避難

○一般住民は、原則として
噴火開始後に徒歩で避難を開始

○火口位置が概ね特定できる場合、
必要な範囲で避難

○山体が確認できない等、詳細な
火口位置が特定できない場合は、
広めに避難対象範囲を設定

○避難行動要支援者の避難が完了し
ていない場合、噴火後であっても
自家用車等で避難させること

一時集結地・避難所

避難を拡大する場合

応援部隊（人員、物資等）受け入れの
妨げとならないよう可能な限り行政が
手配する車両により移動し車両台数の
抑制を図ること

○避難経路＝応援部隊の進入路と
なることが多いため、可能な限り
車両台数を抑制し道路機能を維持

○避難先の駐車スペースを把握し、
車両台数の抑制に努めること

○観光客は、「避難の拡大」ではなく、
帰宅支援となるため、公共交通機
関が機能しているエリアまで移動さ
せること

他市町村の避難所・仮設住宅

溶岩流からの避難は遠方
に避難することが必ずし
も効果的とは言えず、む
しろ近隣に避難場所を確
保することで住民の負担
軽減や徒歩移動による渋
滞抑制により地域全体の
円滑な避難が可能

一般住民は原則徒歩移動

徒歩を組み込んだ避難体制
徒歩による避難先は、一
時的に安全確保が可能な
避難所・避難場所（一時
集結地）であり、それ以
降避難が拡大する必要が
ある場合には、市や県が
手配した車両により指定
する避難所へ移動する。

「いのち（命）」を守る、「くらし（生活）」も守る！



御殿場地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリル マップ及び一時集結地(避難場所)

	ドリル マップ数	最速 到達	最大 範囲	一時集結地 (避難場所)
①御殿場	6	M35	L31	御殿場高
②深 沢	6	M35	L31	YMCA東山荘
③東田中	5	M35	L31	富士見公園
④鮎 沢	2	L31	L31	鮎沢公民館
⑤萩 原	7	M35	L31	中央公園
⑥二枚橋	5	M35	L31	御殿場小
⑦西田中	6	M35	L31	御殿場高 東小、御殿場小
⑧北久原	8	M35	L31	御殿場中
⑨仁 杉	10	M35	M35	市体育館
⑩栢ノ木	2	M35	L31	御殿場高

凡例：

第3次
避難対象エリア

第4次
避難対象エリア

第5次
避難対象エリア

第6次
避難対象エリア



富士岡地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリル マップ及び一時集結地(避難場所)

	ドリル マップ数	最速 到達	最大 範囲	一時集結地 (避難場所)
① 竈	14	M41	L34	竈幼稚園 富士岡小
②萩 蕪	4	M38	L34	富士岡小
③沼 田	2	L34	L34	富士岡小
④二 子	3	L34	L34	富士岡中
⑤中山上	5	L34	L34	富士岡小
⑥中山下	16	M42	L34	富士岡中
⑦風 穴	18	M43	L36	富士岡中
⑧中清水	19	M43	L34	富士岡小
⑨駒 門	19	L36	L32	富士岡小
⑩大 坂	17	M43	L34	富士岡中
⑪町 屋	17	M43	L34	神山小
⑫高 内	2	L34	L34	神山小
⑬尾 尻	16	M43	L34	神山小
⑭神 山	4	L35	L34	神山小
⑮富士見原	16	M44	L35	神山小

凡例：

第3次
避難対象エリア

第4次
避難対象エリア

第5次
避難対象エリア

第6次
避難対象エリア



原里地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリルマップ及び一時集結地(避難場所)

	ドリル マップ数	最速 到達	最大 範囲	一時集結地 (避難場所)
①川島田	1	L31	L31	森之腰幼稚園
②杉名沢	15	M41	L34	朝日小
③神 場	23	M43	L36	朝日小
④板 妻	23	M42	L36	原里中
⑤保土沢	17	M41	L34	原里小
⑥永 塚	10	L34	L34	市体育館
⑦北 畑	8	L34	L31	市体育館
⑧大 沢	8	L32	L31	朝日小

凡例：

第3次
避難対象エリア

第4次
避難対象エリア

第5次
避難対象エリア

第6次
避難対象エリア



玉穂地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリル マップ及び一時集結地(避難場所)

	ドリル マップ 数	最速 到達	最大 範囲	一時集結地 (避難場所)
①茱萸沢下	1	L31	L31	玉穂第1保育園
②茱萸沢上	8	L31	L31	玉穂小
③中畑東	10	M35	L31	玉穂小
④中畑北	10	M35	L31	西中
⑤中畑南	10	L34	L34	西中
⑥中畑西	13	M38	L31	西中
⑦川 柳	10	L34	L34	西中

凡例：

第3次
避難対象エリア

第4次
避難対象エリア

第5次
避難対象エリア

第6次
避難対象エリア



印野地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリル マップ及び一時集結地(避難場所)

	ドリル マップ数	最速 到達	最大 範囲	一時集結地 (避難場所)
①小木原	16	M41	L34	樹空の森 西中
②時之栖	16	M41	M41	樹空の森 西中
③印 野	15	L36	M42	西中

凡例：

第3次 避難対象エリア	第4次 避難対象エリア	第5次 避難対象エリア	第6次 避難対象エリア
----------------	----------------	----------------	----------------



高根地区溶岩流最速・最大影響範囲ドリル マップ及び一時集結地(避難場所)

	ドリル マップ 数	最速 到達	最大 範囲	一時集結地 (避難場所)
①塚 原	5	M35	L29	高根中
②六日市場	4	M35	L29	高根小
③美乃和	5	M35	L33	高根小
④清 後	6	M35	L31	高根小
⑤山之尻	5	M35	M35	高根中
⑥柴怒田	6	M35	L31	市体育館
⑦上小林	8	L30	L31	高根中
⑧水土野	7	M35	L29	市体育館
⑨古 沢	5	L28	L29	高根小

凡例：

第3次
避難対象エリア

第4次
避難対象エリア

第5次
避難対象エリア

第6次
避難対象エリア

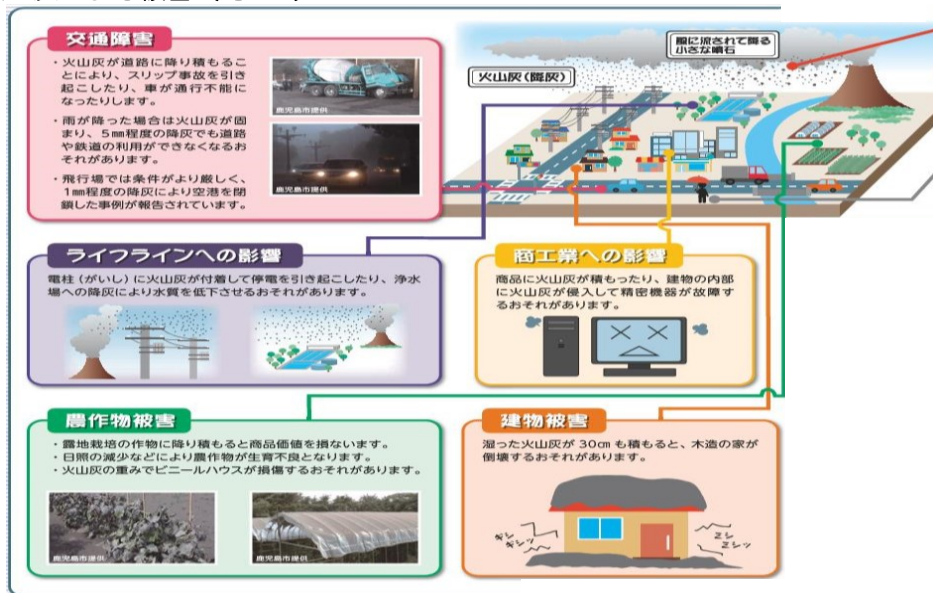


降灰(小さな噴石を含む。)によるリスク

○降灰(小さな噴石を含む。)可能性マップ



○火山灰による被害(その1)





降灰(小さな噴石を含む。)によるリスク

○火山灰による被害(その2)

降灰や風に流されて降る小さな噴石とその影響

火山噴火による降灰の被害については、建物倒壊・交通障害・ライフラインへの影響・農作物被害・健康被害など、多岐にわたって発生し、被害の程度は“分野ごと・降灰量ごと”に異なることが知られています。また、小さな噴石が風に流されて落下して、車の窓ガラスを割る被害なども報告されています。



風に流されて降る小さな噴石の落下

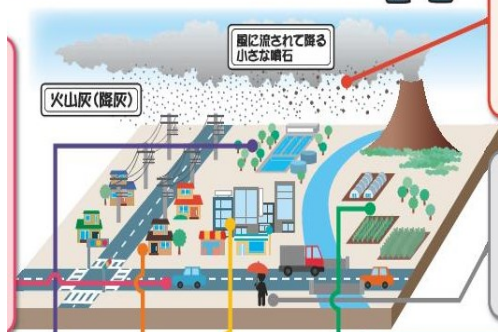
- ・強風時には10 km以上も流されます。
- ・車の窓ガラスを割ったり、人にあたればケガのおそれがあります。
- ・概ね1 cm以上のものから被害が生じます。



小さな噴石の落下で車の窓ガラスが破損



観測された小さな噴石(最大4cm)



健康被害

火山灰が目に入ったり、大量に吸い込んだりした場合、目・鼻・のど・気管支に異常が出たり、ぜんそくの症状が悪化するおそれがあります。



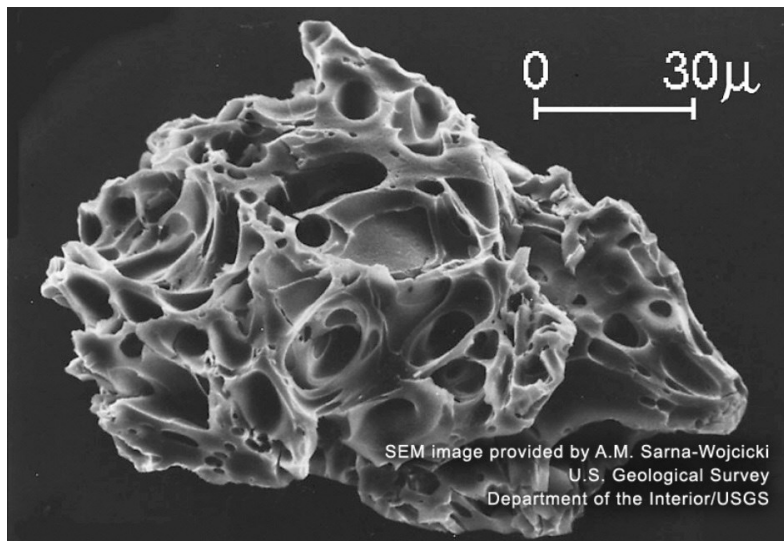
青田本新聞社提供

降灰による影響は、分野ごと・降灰量ごとにいろいろあるのね。



気象庁HP 降灰予報リーフレットより抜粋

○火山岩が粉々になった火山灰粒子



SEM image provided by A.M. Sarna-Wojcicki
U.S. Geological Survey
Department of the Interior/USGS



避難に備えて

○徒歩避難に備え服装や携行品を準備しておきましょう。

●避難する場合は、以下に注意しましょう

■忘れてませんか？

- 1 戸締り、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
- 2 貴重品は忘れずに持参しましょう。
- 3 非常持ち出し品を確認しましょう。
- 4 外出中の家族のために、避難先を書いたメモを残しましょう。

■避難する場合は・・・

- 1 市役所や消防団などの指示に従い、落ちついて行動しましょう。
- 2 お年寄り、赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。
- 3 小石が降ってくることがあるのでヘルメットなどで頭を守りましょう。
また灰を吸い込まないようにマスクやゴーグルをつけましょう。
- 4 くぼ地には有毒ガスがたまりやすいので、近づかないようにしましょう。

■避難場所では・・・

- 1 人数を確認し、逃げ遅れた人がいないか確認しましょう。
- 2 お互いに助け合いましょう。
- 3 ラジオやテレビ、同報無線などの情報に注意しましょう。



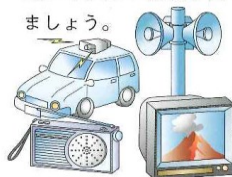
●噴火しそうな時、噴火が始まった時には

気象庁が発表する火山
情報に注意しましょう。

デマやうわさに惑わさ
れないようにしましょう。

テレビやラジオのニュ
ース、市の無線などを
聞いて正しい情報を得
ましょう。

避難指示などの指示が
あった場合には従いま
しょう。





避難に備えて

○降灰時の屋内退避にあたり必要な物資を備蓄しましょう。

- ポイント**
- 非常持ち出し品は、両手が見えるリュックタイプの袋などにまとめておきましょう。
 - 避難の妨げにならないように、軽くコンパクトにまとめましょう。
 - 自分に必要なものの優先順位を決めて準備しましょう。
 - 定期的の中身をチェックしましょう。

貴重品

- ☐ 現金（小銭を含む）
- ☐ 車や家の予備鍵
- ☐ 予備の眼鏡、コンタクトレンズなど
- ☐ 通帳、保険証、免許証のコピー
- ☐ 母子健康手帳
- ☐ お薬手帳



情報収集用品

- ☐ 携帯電話（充電器を含む）
- ☐ 携帯ラジオ（予備電池を含む）
- ☐ 家族の写真（はくれた時の確認用）
- ☐ 緊急時の家族、親戚、知人の連絡先
- ☐ 広域避難地図（ポケット地図でも可）
- ☐ 筆記用具・ノート



食料など

- ☐ 食料品
（非常食3日分を含む7日分）
- ☐ 飲料水
（1人1日3リットルを7日分）



便利品など

- ☐ 簡易トイレ
- ☐ ヘルメットが防災ずきん
- ☐ 懐中電灯（予備電池を含む）
- ☐ 笛やブザー
（音を出して居場所を知らせるもの）
- ☐ 万能ナイフ
- ☐ スプーン・はし・カップ
- ☐ ラップ類
- ☐ 使い捨てカイロ



- ☐ マスク
- ☐ ビニール袋
- ☐ アルミ製保温シート
- ☐ 毛布又は寝袋
- ☐ スリッパ
- ☐ 軍手か皮手袋
- ☐ マッチライター
- ☐ 給水袋
- ☐ 雨具（レインコート、長靴など）
- ☐ レジャーシート
- ☐ テント
- ☐ パール・ジャッキ
- ☐ バイク・自転車
（できればノーバンク仕様）



清潔・健康のためのもの

- ☐ 救急セット
- ☐ 常備薬・持病薬
- ☐ タオル
- ☐ トイレットペーパー・ティッシュペーパー
- ☐ 着替え（下着を含む）
- ☐ ウェットティッシュ・汗取りシート
- ☐ 予備の入れ歯・補聴器
- ☐ 歯みがきセット



その他

- ☐ 紙おむつ（幼児用・高齢者用など）
- ☐ 生理用品
- ☐ 粉ミルク・哺乳瓶
（赤ちゃんに必要なもの）
- ☐ ペットフード
- ☐ その他自分の生活に欠かせないもの



ご自身の環境に合わせて必要なものを準備してください。

日本赤十字社東京都支部作成「非常時の持ち出し品・備蓄品チェックリスト」参照